

竹濱朝美先生の定年ご退職にあたって

産業社会学部長 永橋 爲介
社会学研究科長 市井 吉興

この度、竹濱朝美教授が定年ご退職を迎えるにあたり、産業社会学部・社会学研究科を代表し、感謝の気持ちを込めてご挨拶申し上げます。

竹濱先生は37年間、産業社会学部・大学院社会学研究科での教育・研究活動等を通じて立命館大学全体の学術発展に貢献され、多くの卒業生・修了生を社会に輩出してられました。以下に竹濱先生のご経歴を簡単に紹介させていただきます。

竹濱先生は、立命館大学産業社会学部をご卒業後、本学大学院社会学研究科博士課程前期課程・後期課程で学びを深められ、1989年4月に産業社会学部助教授として着任されました。2004年4月に教授に就任されて以降、2026年3月の定年退職に至るまで、産業社会学部および大学院社会学研究科における教育・研究の発展を、長年にわたって支えてられました。そしてこのたび、立命館大学名誉教授となられたことは、私たちにとっても大きな喜びです。

竹濱先生のご研究は、環境政策、環境配慮型社会を中心に、再生可能エネルギー政策、温室効果ガス削減対策、電力システムとエネルギー政策、風力・太陽光発電の系統連系政策など、現代社会にとってきわめて重要な課題に向けられてきました。先生の研究の大きな特徴は、環境問題を抽象的に論じるのではなく、制度、データ、社会条件に即して具体的に考察し、そのうえで社会の進むべき方向を構想していくところにあったのではないかと思います。とりわけ近年は、ドイツをはじめとする欧州の制度分析をふまえながら、固定価格買取制度、地域間送電、需給調整、デマンドレスポンス、石炭火力廃止と再生可能エネルギー比率の拡大可能性など、きわめて切実で今日的なテーマに精力的に取り組んでられました。そこには、時代の変化に応答しながら問いを深め続ける、竹濱先生の真摯な学問的姿勢がよくあらわれています。

教育の面でも、竹濱先生は「環境社会論」「現代環境論」「国際環境政策論」等を担当され、環境問題を社会、政策、経済、技術のつながりのなかで捉えることの重要性を多くの学生たちは学び、複雑な現実を粘り強く読み解く力を育みました。この力は就職活動でも高く評価され、先生のゼミで指導を受けた学生や院生たちは卒業・修了後も、それぞれの職場や地域社会で、環境政策や社会課題への関心を葆ちつつ、先生のもとで培った視点と技術を生かして活躍しておられます。

また、竹濱先生は、学内において学生主事、教養教育センター員、社会学研究科教学委員、研究委員会委員などを歴任され、教育研究環境の整備と大学運営にも力を尽くしてられました。

さらに、京都舞鶴港港湾審議会委員、日本環境学会幹事、兵庫県川西市環境審議会委員・副会長など、学外においても重要な役割を担われ、研究成果を社会へ還元してられました。竹濱先生のお仕事は、大学のなか

にとどまるものではなく、地域や政策の現場にしっかりと開かれたもので、学問と社会との接点に立ち続けてこられたことも、先生の歩みの大きな特徴であるといえます。

竹濱先生の学内外での研究と教育、社会貢献された足跡、学問に対する真摯な姿勢と識見を継承し、発展させていくことが、先生に対する感謝の証となるものと私たちは考えます。

竹濱朝美先生の長年にわたるご尽力に、あらためて深く感謝申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2026年5月